

令和6年能登半島地震災害調査団現地報告会

能登半島地震がなぜ起こり故郷がどう変化したのか —持続可能な故郷の再生に向けて—

令和6年1月に発生した能登半島地震災害を対象に、学会調査団（団長：大谷具幸）が組織され、多くの会員と協力者によって調査が行われました。その成果が、ようやく報告書として出版されます。この報告書などを利用して地元の皆様へのアウトリーチとともに、会員の技術向上のために災害研究の報告を行います。震災1年後の新年早々ですが、是非参加してください。

開催日時：令和7年1月11日（土曜日）13:00～16:40（開場 12:00～）

開催会場：金沢勤労者プラザ + WEB 併用

〒920-0022 石川県金沢市北安江 3-2-20 : 200名収容

**参加費：無料（石川県、新潟県、富山県、福井県在住の一般市民のみなさま）
無料（学生）**

5,000円（日本応用地質学会会員・ほか：以下の販売資料を含む）

配布資料：講演 ppt 資料（500円）、調査団報告書（4,000円（定価5,000円））

※参加費無料の皆様には、会場にて希望者に販売します

C P D : 3.17 CPDH

講演プログラム

開場・受付開始 12:00～ 資料配布 司会進行 稲垣秀輝（環境地質）
開会挨拶 13:00～13:05 調査団長 大谷具幸（岐阜大学）

第1部 能登半島地震を理解する（13:05-13:50）

- 1-1. 令和6年能登半島地震、その発生と地域社会・自然環境の被害、そして今後の復興にむけて：塚脇真二（金沢大学）
（休憩10分：13:50-14:00）

第2部 能登の山々はなぜ大きく崩れたのか？（14:00-14:45）

- 2-1. ドローン・セスナ機からみた崩れた山々：佐藤昌人（防災科学技術研究所）
2-2. 能登半島の地形・地質が土砂災害を引き起こした：千田敬二（八州）
2-2. 能登半島に広がる古い火山の噴出物が被害を大きくした：太田岳洋（山口大学）

第3部 大地が割れ・盛り上がり・動いた！（14:45-15:15）

- 3-1. 能登半島地震で地形がどう変わったのか？：小俣雅志（パスコ）
3-2. 生活に大きな影響を与えたインフラ被害の特徴：片山政弘（熊谷組）
（休憩10分：15:15-15:25）

第4部 能登地方以外でも大きな災害がおこったわけ（15:25-15:55）

- 4-1. 石川県加賀地方や富山県沿岸部での液状化と金沢市内の斜面崩壊がおこったわけ：加藤靖郎（川崎地質）
4-2. 遠く離れた新潟・福井県で液状化・土砂災害が発生したわけ：佐藤壽則（日さく）

第5部 地震やその後の災害から身を守るために（15:55-16:25）

- 5-1. 地震による被害を防ぐ、減らすために：野々村敦子（香川大学）
5-2. 応用地質から見た地震とその後の豪雨への対応のしかた：稲垣秀輝（環境地質）

第6部 質疑応答（16:25-16:35）

閉会挨拶 16:35-16:40 北田奈緒子（GRI財団：日本応用地質学会副会長）
アンケートの回収・閉会

報告会参加の予約は、下記の URL から事前申し込みをお願いします。

(申込期間は 12 月 1 日から 1 月 1 日の間)

申込 URL <https://forms.gle/adqwzQxayJYGrVHy7>

※報告書の販売については、別途案内する予定です。